

目の不自由な人のために字が大きく印刷された教科書を説明する相羽さん(中)＝岡崎市矢作北小で



## 弱視疑似体験で学ぶ

岡崎・矢作北小 愛教大助教が講師

岡崎市矢作北小学校 大の学生四人が講師を三年二組の三十人が務めた。相羽さんは生二日、弱視の疑似体験まれつき弱視で、目の通じて視覚障害について学んだ。

愛知教育大助教の相羽大輔さん(三三)と、同室で黒板が見えにくい

ことや視野が狭いことなどを紹介。「将来、視覚障害のある人と学校や仕事で関わるかもしれない。どう接することができかを考えてほしい」と呼び掛けた。

その後、子どもたちは字が大きく印刷された視覚障害者向けの教科書を手に取って眺め、単眼鏡や拡大鏡をのぞき込んだ。弱視体験の眼鏡をかけ、おわんに汗物をよそつ体験もあった。

岩月千怜さん(九三)は「眼鏡を着けると見えづらい色があった。目の不自由な人と接する時は、できる範囲で何か手伝うのがいいと思った」と話していた。

(朝国聡吾)